

かお・人・interview

2021年9月17日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
佐賀国道事務所 所長

沓掛 孝氏

takashi KUTSUKAKE

九州の北西部に位置する佐賀県は、物流面で九州経済に大きく寄与する「クロスポイント」だ。人・街・物が交流する道路は、安全でスムーズな移動が最優先に求められる。その役割を担っているのが佐賀国道事務所だ。高規格幹線道路や地域高規格道路、国道3号、34号などのバイパス整備や拡幅、維持管理・渋滞緩和・交差点改良など、現在取り組んでいる事業や課題などについて沓掛所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

近年は気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、大規模地震の発生も切迫しています。また、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの多くが50年以上経過し、老朽化が見込まれることから維持管理、更新を確実に実施する必要があります。

今回、防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラムが策定されました。安心して通れる道路の確保は、道路管理や整備を任されている、われわれ道路管理者の使命だと思っています。道路を管理する高速道路会社、道路公社、県、市町と連携しながら取り組んでいくことが重要です。佐賀国道事務所は、所長として就任した初めての勤務ですが、地域の皆様が安心して暮らせるインフラの整備、管理にまい進して参ります。

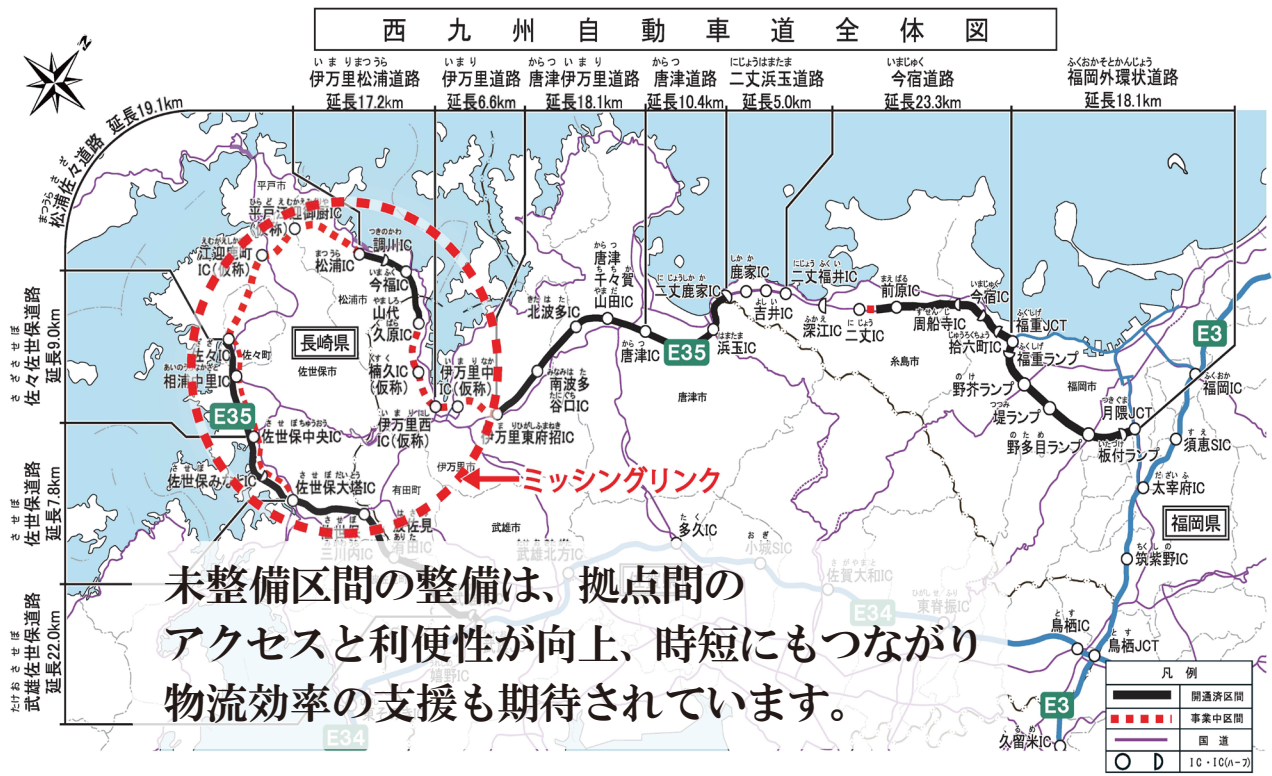


▲西九州自動車道建設事業（佐賀497号木須地区東工区改良工事）

Q九州や福岡県とのかかわり

前任地の九州地方整備局道路管理課では、道路の維持管理、修繕、無電柱化、老朽化対策、災害対応など24時間体制で道路の異常について事務所、出張所と取り組んできました。令和元年8月の豪雨では、北部九州が大雨に見舞われ、多くの道路が土砂崩れ、冠水、通行止めが発生しました。特に佐賀県では、一時間雨量が





100ミリを超える雨量を観測するなど2日間で500ミリを超える記録的な大雨となりました。本局では、地域交通、広域交通に対して高速道路会社と調整を図り、長崎道の無料化措置や国道34号の放置車両に対して災害対策特別措置法を適用するなど早期の交通確保に努めました。佐賀県は九州のクロスポイントです。災害に強い道路管理、ネットワーク作りに努めていきたいと思います。

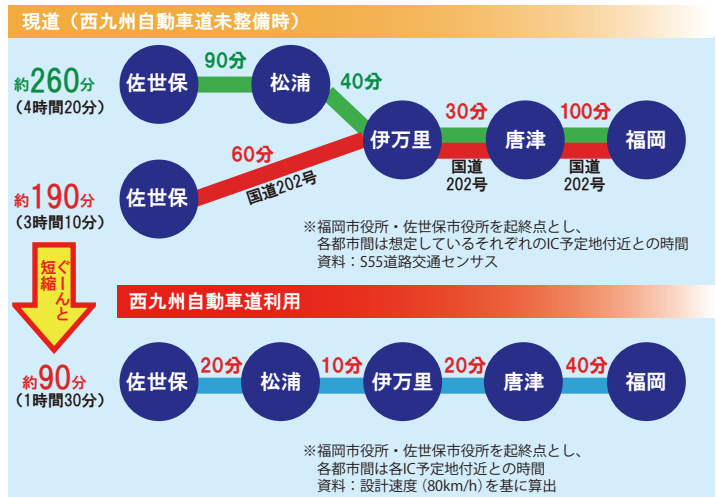
Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

佐賀国道事務所は、昭和7年に国道34号の改良工事を担当する佐賀国道工事事務所として設置され、平成15年に佐賀国道事務所へ改名しました。佐賀県内における唯一の直轄国道事務所であり、現在は安全かつ円滑な道路交通の確保を目的とし、高規格幹線道路である西九州自動車道や主要国道の新設・改築・無電柱化・交通安全施設等整備事業及び維持管理等を行っています。国道3号、34号、202号、203号等を含めた7路線、約233kmとなっており、武雄、鳥栖、唐津の3つの出張所で管理を担当しています。

Q 今年度の事業概要

西九州自動車道は、高規格道路網の一環として、福岡市から唐津市・伊万里市・佐世保市を経由して武雄市に至る延長約150kmの自動車専用道路であり、九州北西部の地域経済の活性化、高速走行による定時性の確保等に大きく寄与しています。

現在、西九州自動車道のミッシングリンクとなってい



る「伊万里道路」の伊万里東府招IC～伊万里西IC(仮称)間と「伊万里松浦道路」の伊万里西IC(仮称)～山代久原IC間について事業を推進しています。

佐賀唐津道路は、延長約40kmの高規格道路であり、県内の広域的な幹線道路ネットワークを形成するとともに、主要都市の佐賀市・九州佐賀国際空港と唐津市を結ぶ基幹となる道路のひとつです。西九州自動車道、九州横断自動車道、有明海沿岸道路を繋ぐことにより、県内のみならず、福岡、長崎、熊本方面への新たな道路ネットワークが形成され、広域的な交流、連携も期待されています。

その他改築事業として、国道3号鳥栖拡幅、鳥栖久留米道路、国道34号神埼佐賀拡幅、武雄バイパス整備の事業を行っています。また唐津市が管理する特殊橋梁「呼子大橋」については、国が修繕を代行しており現在大規模補修を行っているところです。

西九州自動車道・佐賀県内の進捗状況

③ 大坪地区より 函渠工事 (R3.4月撮影)



② 大坪地区より 掘削工事 (R3.4月撮影)



① 南波多地区より 改良工事 (準備中) (R3.3月撮影)



⑥ 木須地区より 橋台工事 (準備中) (R3.3月撮影)



⑤ 脇田地区より 改良工事 (R3.3月撮影)



④ 大坪地区より 工事用道路設置工事 (R3.5月撮影)



Q 地域との連携・協働について



▲道守活動

九州では、平成16年より「道守」が地域団体と行政が連携して道路清掃や花壇の整備などを行っています。近年では、日本風景街道、道の駅と一緒に「3つの輪」に取り組んでいます。佐賀県でも4月の道の駅の日では、道守の皆さんと道の駅の清掃を行いました。新型コロナウイルスの影響で、移動制限や自粛生活が続き、やりたくても、やれないことが多い状況ですが、オンラインを活用する等工夫をしながら連携を図っていきたくと思っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業に従事する皆さんは、地域インフラを支えるだけでなく、災害発生時にはいち早く現場で活動し、復旧復興にご協力いただいています。令和元年8月の大

雨では、たくさんの建設業者様に昼夜を問わず現地対応していただきました。おかげさまで早期復旧を実現することができました。

建設業界では高齢化、担い手の確保など課題は大変多くなっています。その中で生産性を上げる取り組みやインフラDX(デジタル・トランスフォーメーション)、i-constructionなどの新たな技術に取り組んでいただくなど感謝申し上げる次第です。

Q 趣味や健康法について

50歳を過ぎてマラソンを始めました。軽いジョギングから始めたものが、今ではフルマラソンに参加するほど。大会に参加すると、道守のみなさんが応援に駆けつけてくれます。沿道から聞こえる温かい掛け声が、これほどパワーがあるとは思いませんでした。しっかり走り切れるのは、地域との連携につながりを感じるからでしょう。せっかく走りが身に付きましたので、これからも続けていきたいと思っています。

プロフィール



R3年4月 現職

出身地：大分県豊後大野市
生年月日：昭和40年7月（56歳）
H 3年4月 建設省入省
H18年4月 延岡河川国道事務所 調査第二課長
H27年5月 宮崎河川国道事務所 副所長
H29年4月 長崎河川国道事務所 副所長
H31年4月 九州地方整備局 道路部道路管理課長